

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370251

研究課題名(和文) 日本統治下上海を中心とした中支各地域における日本語文学状況の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Research on Japanese Literature in Japan-Controlled Shanghai and the Surrounding Area

研究代表者

木田 隆文(KIDA, Takafumi)

奈良大学・文学部・准教授

研究者番号：80440882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦時下の上海およびその周辺地域で活動した日本人作家・文学団体に関する基礎資料整備と、動向確認を主眼とするものである。

研究では中国および国内図書館での複数回の調査によって、これまで実態が知られていなかった現地の日本文学者団体の動向や、それらが発行した日本語文学雑誌や関連書籍を多数発見し、その成果をいくつかの論文や国際シンポジウム「戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から」などの場で報告した。また研究過程で収集した図書は、「海の彼方の日本語文学 詩人・池田克己とその時代」と題する展覧会で広く一般に公開した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on a Japanese author and literary circle writing in Shanghai and the surrounding area during the war, cataloguing their documents and examining the motivation behind their works.

Several previous research projects undertaken in China and by libraries in Japan failed to fully consider the activities of the Japanese literary group and the literary journals and books which they published, and therefore produced no clear results. The results of my research project were reported in several academic journal articles and at an international symposium entitled "The Media of Wartime Shanghai: From the Perspective of Cultural Politics." Additionally, the results have been shared with the general public through an exhibition under the title "Japanese Literature Across the Sea: Ikeda Katsumi and His Era."

研究分野：日本近代文学

キーワード：外地文学 文化支配 上海 中支 池田克己 汪兆銘政権 植民地文化

1. 研究開始当初の背景

上海と日本文学の関係は、『言語都市・上海1840 - 1945』(1999・9、藤原書店)以後、多くの検討が重ねられてきた。しかしその多くは芥川龍之介・横光利一ら内地作家の作品にみられる上海表象の問題に関心が集中し、現地邦人作家たちの文学的営為が問題化されることは皆無に等しかったといえる。しかしそれは、同地にみるべき文学活動がなかったことを示しているわけではない。木田は平成19年から3年間にわたり科学研究費基盤(B)「戦時上海の文芸文化と邦字新聞「大陸新報」に関する多角的研究」(研究代表・大橋毅彦)に研究分担者として参加。日本統治下上海で発行された『大陸新報』の文芸文化関連記事のデータベース化を進めると共に、数次にわたる上海図書館への文献調査を実施した。その結果、「大陸新報」に現地作家の文学状況が詳細に報道されていること、さらに上海図書館に現地刊行の日本語文芸書が一定数保存されていることが確認できた。そこで木田個人としては、その基礎研究の応用課題として、同紙記事に見られる現地邦人作家による文学団体の動向調査を担当、独自に記事内容分析と関連資料収集を進めてきた。

その結果、上海を中心とする中支各地域の日本語文学活動が、他の外地に匹敵するほどの規模と水準をもつだけでなく、日本の文化統治政策と現地事情の間で複雑な様相を繰り広げていたことが想定されるに至った。

2. 研究の目的

そこで本研究は、前述の調査によって得られた研究基盤をさらに発展させ、上海および中支(汪兆銘政権勢力)各地域で展開した日本文学の実態解明を試みるべく、以下4点の目標を設定した。

中支各地域に存在する邦人文学者および邦人文学者団体の実態確認。

中支各地域の文学者・文学団体の交流状況の追跡。

中支各地域における日本語文学メディアの実態確認。

内地および汪兆銘政権の文化政策と、現地文学活動の相関性の検討。

本研究がこうした課題を設定したのは、単なる資料整備・事実確認だけを目標とせず、文学と周辺領域の複合研究を意識したためである。たとえば上記①の検討課題は、上海から中支、大陸各地、そして内地へと連なる東アジア日本文学者のネットワークの検討や、日中文学者の文化的接触/摩擦の考察へと発展する可能性を予感させる。また②では、外地文化統治政策における文学プロパガンダの実態解明や、内地文化政策と植民地文化行政の力学関係の究明など、文学周辺の問題へも押し広げてゆくことが想起できたためである。

そしてなにより、これらの検討をすすめるこ

とは、日本近代文学研究の中でも近年特に議論が高まっている外地文学研究の空白を埋めることになるだけでなく、植民地文化研究全体の進展に寄与することが予想されたからである。

3. 研究の方法

上記①の研究目的を達成してゆくうえで、まず座標軸として設定したのは、池田克己という文学者の動向である。

池田は上海に派兵された昭和14年から敗戦直前まで現地に居留、国策新聞社であった大陸新報社に写真記者として入社。その後同社の意向によって結集された上海文学研究会の中心作家として活動した。また同時に南京国民政府(汪兆銘政権)宣伝部顧問の草野心平と接触を持ち、第3回大東亜文学者大会(南京大会)では、現地代表として出席している。つまり池田の活動を追うことは、必然的に本研究課題である汪兆銘政権勢力地域に展開した日本語文学の実態(文学者・団体・メディア状況...)を拾い上げてゆくことになると共に、日本の文化統治にかかわる複雑な問題を浮き彫りにすると思われたからである。

そのため、まずは池田克己の伝記および書誌・参考文献リストの整備を行い、交友関係や動向、創作の実態を確認するための基礎データを作成した。

また本研究課題が取り上げる現地作家の動向が等閑視されてきたのは、その資料不足が大きな理由であった。そこで現地発行の日本語文学関連資料の発掘、収集に特に力を注いだ。これまでの調査において、上海図書館徐家匯蔵書楼には多数の関連図書があることが判明しており、まずは同図書館所蔵の関連資料の収集を行い、同時に、新たな調査先の開拓として、上海周辺各都市(南京・杭州・蘇州・武漢等)の図書館・档案馆での資料探索を試みた。

さらに国内でも国会図書館・日本近代文学館・東洋文庫・愛知大学豊橋図書館などの主要所蔵機関の調査を中心に進め、古書店の在庫にも目配せをしつつ、資料の集積に努めた。そしてそれら基礎資料の整備が整った段階で、随時成果を学会等で報告を行ったが、その際、日本上海史研究会など、関連・隣接領域での報告を心掛け、幅広い知見から検討を進められるように心がけた。

4. 研究成果

(1) 研究基盤の整備

本研究課題は、当該分野の資料整備がほとんど進められていなかったため、まずは研究基盤の整備を行うことに主眼をおいた。そのために、国内外の所蔵機関での資料の収集調査を数次にわたり行った。その結果、以下のように旧来未発見であった資料が多数発掘でき、同時に国内外各機関の所蔵状況を明らかにすることもできた。

海外における資料調査・収集

在外資料の調査においては、すでに図書所の蔵状況が確認できている上海図書館徐家匯蔵書楼を中心に進め、同館所蔵の現地発行の日本語文芸書および、関連資料の相当数を写真撮影することができた。

また上海周辺の都市における調査としては、浙江図書館孤山分館（杭州）、南京図書館（南京）、湖北省図書館、漢口市図書館（以上武漢）は、これまで未調査であったため、まずは資料の所蔵状況の確認を行うことに力点を置いた。そのうち杭州図書館は現地の目録調査において、多くの関連資料があることが確認できた。ただし電子化作業のための資料閲覧制限期間と、本研究期間が重なったため、同館での図書の現物調査は数点のみにとどまった。しかし重要な調査先であることが確認できたことは今後の研究展開において大きな布石となった。また南京図書館では、中日文化協会の成立過程と事業報告が記された「中日文化協会二周年特刊」など、汪兆銘政権の文化政策を示す資料の確認ができ、同地域の文化状況を確認するための基礎資料を入手できたことが重要な成果であった。なお本調査は上海を中心とする中支地域を主たる調査対象としたが、発展的に中国東北部および台湾の所蔵機関にも調査を広げた。その結果、東北部および台湾にも同地域で発行された書籍が流通していた事実が確認できた。こうしたことは、書籍の流通とそれによる文化的ネットワークを東アジア全体で考察する必要性を浮かび上がらせることになった。

国内における資料調査・収集

国内の所蔵機関としては、国会図書館・日本近代文学館・東洋文庫・愛知大学豊橋図書館を中心に調査を進め、「武漢大陸新報」「大陸往来」などの現地発行の新聞雑誌類、中日文化協会発行図書等の基礎資料の収集調査を行った。このうち日本近代文学館では、外地版の悉皆調査を行ったが、それらの多くが高見順旧蔵書であった点が確認されたことが一つの成果であった。これらはおそらく、第三回大東亜文学者大会の際に入手されたことが推定される、こうした点からは、人物の移動と書籍の流通の観点から、内地/外地の文化交渉の在り方を考える手がかりを得ることとなった。

また当該分野の資料は国内外の図書館にも十分に所蔵されているとはいいがたいため、所蔵機関での調査・収集以外に、古書店等からの資料入手にも気を配った。それにより、「長江文学」創刊号、「武漢文学会雑誌」「武漢文化」など、これまでその存在が知られていなかった資料類を入手することができ、以下で示したような新たな研究的展開を得ることができた。

資料調査報告

上記の調査によって判明した国内外の資料状況および公開の状況については、2016年3月12日に淡水大学（台湾）で行われたシンポジウムにおいて、「戦時上海の日本語文学状況とその展望」と題して報告を行った。また入手資料のうち重要なものについては、今後の公開を見据え、電子化を進めている。

（2）中支各都市における文芸文化状況の解明

池田克己を軸とした日本統治下上海の文芸文化状況の究明

本研究は、池田克己の動向から中支各都市の日本語文学の状況を確認することを企てた。そのためまずは「大陸新報」記事および調査の過程で入手した資料から、池田克己とその交友関係、活動に関する事項を抽出した調査データベースを作成し、次いで各記事にみられる内容の分析を試みた。

その結果、池田が上海で初めて組織化された日本人文学者団体である上海文学研究会の成立の立役者であり、同会を足掛かりとして、中国側の文学者との交流や、南京をはじめとする中支各地域の日本人文学者の糾合を図る活動を積極的に試みていたことが確認された。また創作においても、同会の機関誌「上海文学」はもちろん、現地で発行された様々な雑誌に多数の作品・評論を掲載していたことが確認できた。そしてその内容は、日本の上海統治の進行に伴い急速に翼賛化してゆくことも見て取れたが、一方でそうした作品を要請する国策メディアに対する疑義を呈する発言を書きつけるなどの揺らぎを持ったものでもあった。

こうしたことは、池田が中支全体の日本語文芸活動の中心人物となっていたことを示すだけでなく、彼が日本の言論政策と駆け引きを行いながら文学団体を維持していた姿を確認することができた。それは日本の文化統治が一枚岩ではなく、複雑な様態を持っていたことが明らかになったといえる。

なおこれらの調査については拙稿「汪兆銘政権勢力下の日本語文学 詩人・池田克己の活動を通じて」(『アジア遊学』167号、2013・8)において報告した。

武漢日本租界における文芸文化状況の解明

本研究は日本統治下上海の日本語文学状況を確認するとともに、中支各都市の日本語文学状況の解明を試みた。しかしこれら都市の日本語文化状況の確認はこれまでほとんどなされてこなかったため、まずは現物資料の発掘・収集作業に重点を置いた。その結果、これまでその存在が確認されていなかった文芸雑誌等を新たに発掘することができた。その中でも特に、武漢（漢口）で発行された『武漢歌人』『武漢文学会雑誌』『武漢文化』は、漢口日本租界の文芸文化状況を克明に示

しており、それらの記事の分析からは、居留民の間で早くから文学団体が結成され、その活動も上海に拮抗するほど活発な展開を見せていたことが明らかとなった。そこで本研究は調査のウエイトを武漢に置き、さらなる関連資料の収集を行い、武漢居留民社会の動向を文化的側面からとらえる試みを進めた。漢口租界に対する検討は、建築史等の分野で若干進展を見せているが、居留民社会の実態解明についてはほとんど進んでいない。こうした状況を鑑みると、本課題は植民地研究の間隙を補填する試みになると思われる。そのため本課題の調査で明らかになったことについては、日本上海史研究会、中日文化協会研究会等で随時報告を行い、他分野の研究者との連携を図るように意識した。

(3) 池田克己の書誌的・伝記的調査および奈良・吉野の文化状況の確認

本研究は種々の状況を池田克己の動向を中心に確認した。その前提として、上記(2)

でも示したような交友関係の確認とともに、池田の伝記的事実の再調査も行った。これまで池田の伝記については、池田の追悼号である『日本未来派』第57号掲載の名簿及び関係者の証言、そしてそれを基にした君本昌久「法隆寺土堀」と「唐山の鳩」(『詩人をめぐる旅』、1982・1、太陽出版)が主要なものであった。しかしそれらは詩人として活動を開始した後の動向に注目を当てており、出発期、特に郷里である奈良県吉野での動向もほとんど未詳であった。そこで今回の調査においては、改めて池田の書誌調査を行い、池田が発行に関与した書籍・雑誌等を収集。そこから読み取れる池田の伝記的事実の確認を行った。そのうち、彼が吉野で発行した『豚』、『風地』、『地図』等の雑誌、『大和誌選』等の単行本などからは、池田が詩人として出発するまでの影響関係が確認できたばかりではなく、吉野および奈良の文化環境、印刷出版状況も浮かび上がってきた。

なおこれら研究成果は奈良大学主催の市民向け公開講座において「吉野・上海・法隆寺 詩人・池田克己の亜細亜」と題して広く公開した。そしてそれが縁で池田克己のご遺族から資料および研究情報の提供を受けることができ、新たな知見を得ることとなった。

(4) 研究成果公開イベントの開催

上記で言及した論文・学会発表以外にも、研究最終年度には、学会向け、市民向けの二つの研究成果報告イベントを開催し、研究成果を広く発信した。

国際シンポジウム

関連学会である日本上海史研究会・中日文化協会研究会と連携し、国際シンポジウム「戦時上海のメディア 文化的ポリテクスの視座から」(2015年10月3~4日、於・奈良大学)を開催した。研究代表者は会場校とし

ての運営だけではなく、「上海漫画家クラブとその周辺 「大陸新報」掲載記事を手掛かりに」と題した報告を行った。

展観

本研究によって収集した図書・雑誌および研究成果を広く市民に向けて公開するために、「海の彼方の日本語文学 詩人・池田克己とその時代」(2016年1月18日~3月26日、於・奈良大学図書館)を開催した。池田克己の生涯をたどりつつ、彼が関与した日本統治下上海の文学状況、武漢を中心とした中支各都市の文化統治の実態を、収集した書籍・資料の紹介によって辿れる構成とした。またあわせて展示資料の解説および池田克己の略年譜、研究参考文献を付した展観目録も刊行し、研究成果を平明に紹介できるように試みた。

なお本展観の概要と池田克己をめぐる研究成果は「読売新聞(夕刊)」、「大阪本社版」、「朝日新聞」(奈良版)、「産経新聞」(奈良版)、「奈良新聞」によって報道され、それにより池田の最初の妻・辰巳千代氏のご遺族、ならびに上海文学研究会同人の兼松信夫のご遺族からも連絡があり、情報および写真等の資料の提供を得ることもなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

木田隆文、〔紹介〕和田博文・黄翠娥編『異郷としての大連・上海・台北』、日本近代文学、査読無、93号、2015、275-275

木田隆文、〔書評〕和田博文他著『共同研究 上海の日本人社会とメディア 1870-1945』、昭和文学研究、査読無、71号、2015、75-77

木田隆文、汪兆銘政権勢力下の日本語文学 詩人・池田克己の活動を通じて、アジア遊学、査読無、167号 2013、113-125

〔学会発表〕(計3件)

木田隆文、上海漫画家クラブとその周辺 「大陸新報」掲載記事を手掛かりに、国際シンポジウム「戦時上海のメディア 文化的ポリテクスの視座から」、2015年10月3日・4日、奈良大学(奈良県奈良市)

木田隆文、日本統治下武漢における文化状況 上海との関係をふまえて、中日文化協会研究会・日本上海史研究会合同ワークショップ、2015年1月11日、大阪学院大学(大阪府吹田市)

木田隆文、戦時上海の邦人文化空間 武田泰淳を接点として、日本上海史研究会第12回例会 2013年8月3日、大妻女子大学(東京都千代田区)

〔図書〕(計3件)

高綱博文編(木田隆文)、研文出版、戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から 2016、360 刊行決定

木田隆文、奈良大学図書館、海の彼方の日本語文学 詩人・池田克己とその時代 展示目録・解説、2016、12

池内輝雄・木村一信他編(木田隆文)、双文社出版、外地 日本語文学への射程、2014、278(160-174)

〔その他〕

展覧「海の彼方の日本語文学 詩人・池田克己とその時代」(2016年1月18日~3月26日、於・奈良大学図書館)を主催。

「読売新聞(夕刊)」「大阪本社版」・「朝日新聞」(奈良版)・「産経新聞」(奈良版)・「奈良新聞」で研究概要と展示内容を報道。

国際シンポジウム「戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から」(2015年10月3・4日、於・奈良大学)の開催。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木田 隆文(KIDA, Takafumi)

奈良大学・文学部・准教授

研究者番号：80440882